

アルミホイールを正しく安全にご使用いただくために

VOLK RACING
O R I G I N A L

RAYS

アルミホイール取扱説明書

販売店様へ

ご購入いただいたお客様へご説明の上、必ずお渡してください。

ご使用のお客様へ

安全のために、ご使用前に本書を必ずお読みください。
また、必要な時にすぐにご覧になれるよう、グローブボックスやトランクの中などに
保管していただきますようお願いいたします。

アルミホイールを取り付ける前に

箱の中身をご確認ください。

タイヤを組まれる前に、商品の外観のご確認および現車とのマッチング、サイズ、カラー、P.C.D.、付属品等に間違いがないかをご確認ください。

もし明らかな破損や不足があった場合は、すぐにご連絡をお願いいたします。

タイヤ組み付け後のキズや塗装に関する返品は一切お受け致しかねますのでご注意ください。

補足表記

各説明にはそれぞれの重要性について、以下のようなマークで補足しています。



危険：取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う危険性がきわめて高い内容を示しています。



警告：取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。



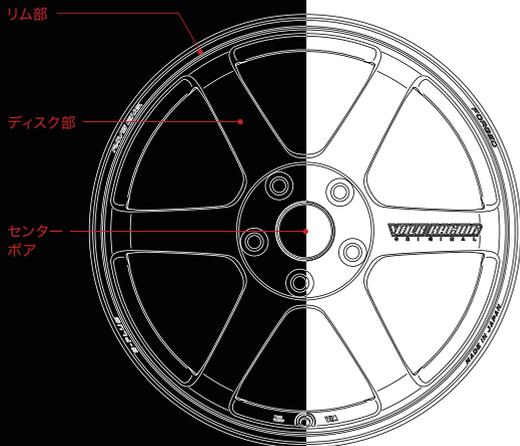
注意：取り扱いを誤った場合、障害を負う可能性または物的損害が発生する可能性がある内容を示しています。

このアルミホイールは「自動車用軽合金製ディスクホイールの技術基準 (乗用車：JWL/トラック・バス：JWL-T)」に適合し、さらに「自動車用軽合金製ホイール試験協議会」の厳正なテストに合格し、VIA マークを与えられていますが、一般に自動車が走行しない場所での走行、ラリー・レースなどの使用限度を超える酷使および違法改造車での使用、または日常の保守点検にて発見されたであろうものによって発生した事故やホイールの変形、亀裂等につきましては、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任、保証を負いませんのでご了承ください。

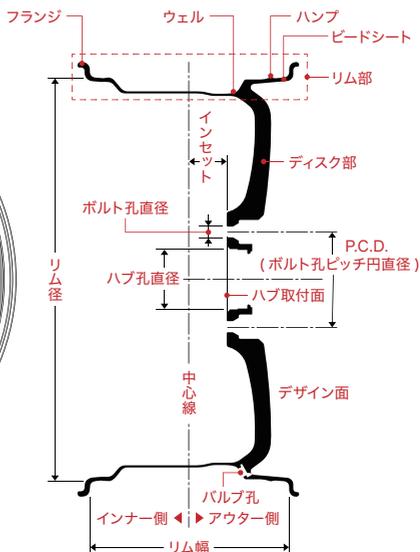
■ 装着前に

！ ホイールの確認

●ホイール各部名称



ホイールは、サイズ・孔数・P.C.D.・インセット・取付面形状・取付ナット座等が装着する車に適合することをご確認ください。なお、同一車軸には同サイズ、同品種のホイールを装着してください。

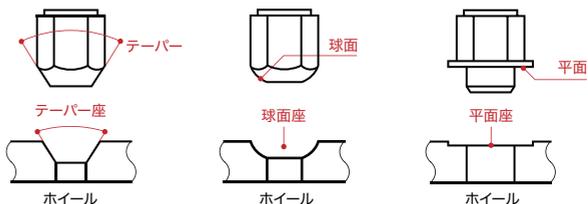


！ 適正タイヤサイズの選定

ホイールにタイヤを装着する際には、リムサイズに適合するタイヤサイズを選定して装着してください。タイヤ幅に対してリム幅が極端に広いものを装着された(いわゆる引っ張りタイヤ)場合、走行中のビード落ちやリムフランジが突出して、リムが直接縁石等に接触するなど非常に危険です。

！ ボルト・ナットの確認

ボルト・ナットは車のネジ径・ピッチをご確認のうえ、必ずナット座形状に合ったものをご使用ください。ナット座にはテーパ座・球面座・平面座があり、形状の異なるボルト・ナットを使用すると走行中に外れる可能性があります。



■ 装着前に

ハブリング等の 使用について

スペーサーおよびハブリングを使用するホイールの場合、適正に取り付けられているかを確認してください。また、この確認を怠ると走行中にボルトおよびナットが緩んで外れるなどの原因になります。スペアタイヤおよび純正ホイールに交換する際は、必ずハブリングを外してから装着してください。

エアーバルブの 取り付けについて

エアーバルブは必ず付属の新品エアーバルブをご使用ください。エアーバルブがホイールのバルブ孔に適合しないと、空気漏れの原因となります。また、一度取り外したエアーバルブはグロメット（エアーシール用のパッキン）の劣化等により、空気漏れの危険性がありますので、再使用はしないでください。

タイヤの 組み付けについて

タイヤ組み付け作業時の空気充填は、タイヤ破裂等の危険を避けるため、安全囲いの中に入れるなど安全措置を講じたうえで行ってください。なお、この空気充填作業は法規で「特別教育」を実施する事が義務づけられており、必ず受講者が作業を行ってください。

空気漏れの確認

タイヤ組み付け後に空気漏れがないかを必ずご確認ください。タイヤとリムのかん合部や、エアーバルブ周辺部は特に注意してご確認ください。空気漏れが発生した状態で走行を続けると、ホイール・タイヤを損傷するなど、事故につながるため非常に危険です。

バランスの調整

タイヤ組み付け後は必ず全輪のバランスを調整してください。バランス不良は異常振動や車両の走行安定性を損ない、タイヤの偏摩耗の原因となります。また、サスペンションに極端なキャンバー等を与え、インナーリム部に極端な負荷・荷重を集中させるような装着は、ホイールに偏ったストレス・応力が加わり、破損等の原因となり事故につながる可能性があるため非常に危険です。可能であれば、車両側のアライメント調整もおすすめいたします。

車種別の取り付けに おける注意

車種によってはブレーキドラム、取り付け面にウェイトや組み立てボルト、位置決めピンやボルト根元のワッシャーが出ています。これらとホイール各部が接触しないかどうか、十分にご確認下さい。

■ 装着前に

! ボルト・ナットの締め方

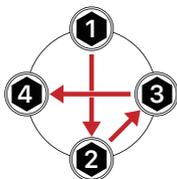
●トルクレンチをご使用ください。

取り付けボルトおよびナットは、以下の推奨トルクで締めてください。また、車の取扱説明書にナット（ボルト）の締め付けトルクに数値指定がある場合は、それに従って正しく締め付けてください。

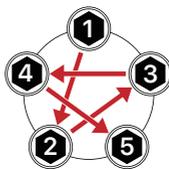
- ・ M10 で 50～70N・m (5.1～7.2Kgf・m)
- ・ M12 で 85～132N・m (8.7～13.5Kgf・m)
- ・ M14 で 125～180N・m (12.8～18.4Kgf・m)

取り付けボルト・ナットの締め過ぎは、ナット・ボルト座面の変形、ボルト破損などを、また、締め付け不足は緩みや外れの原因となります。インパクトレンチをご使用される場合は、低いトルクで仮締めを行い、その後トルクレンチにて推奨トルクで締め付けてください。

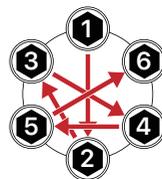
●ボルト / ナットの締め付け順序



4 ホール



5 ホール



6 ホール

■ 装着後に

! 装着後の確認

車両への装着の際は、車体・サスペンション部品との接触がないか（前輪はハンドルを左右いっぱいにつけて）をご確認ください。ホイール・タイヤが車体からはみ出すことは、法令で禁止されています。

! 空気圧の確認

走行前にはタイヤの空気圧点検を必ず実施してください。特に低扁平率タイヤは内圧不足による衝撃吸収性の低下が顕著であり、タイヤ・ホイールを傷める原因にもなります。エアバルブキャップ装着時は、内蔵されたゴムリングが底に密着していることを必ずご確認ください。エアバルブキャップの締め過ぎは空気漏れの原因となりますので、締める抵抗が増えてから、90度程度締め込んでください。

■ 装着後に

! ボルト・ナットの増し締め

装着初期やタイヤローテーション後は、ボルト・ナットが緩みやすくなりますので、約 100km 走行後にトルクレンチを使用して推奨トルクで増し締めを行ってください。

! 運転上の注意

急発進・急制動・急旋回など、無理な走行や乱暴な運転はタイヤ・ホイールを傷めるだけでなく、重大な事故につながる恐れがありますので、絶対に行わないでください。また、道路の縁石や歩道、凹凸などへの乗り上げは、場合によって変形する事があります。ホイールが変形した状態で走行されますと、ホイールに割れや亀裂が生じる原因となりますので、使用しないでください。

■ 異常発生時に

! 異常時の注意と処置

運転中に異常な振動や音などを感じましたら、ただちに安全な場所に停車して、取り付けボルトおよびナットの緩みやホイール・タイヤに異常がないか点検してください。

万一、ホイールに異常（変形・割れ・ボルトおよびナットの緩み・空気漏れ等）が発生している場合は、使用を中止して買い上げの販売店にご相談ください。

■ 日常点検時に

! 日常点検およびお手入れ

アルミ合金は耐腐食性に優れていますが、道路凍結防止剤や塩分など、海辺や雪路および悪路走行後は十分に水洗いをするなど常にきれいな状態を保ってください。塩分や泥が付着した状態で放置していると、光沢にムラやシミが発生することがあります。市販の洗浄液（ホイールクリーナー・ボディクリーナー等）のなかには、変色やシミ・ムラの原因となる成分（酸やアルカリ性の強いもの、研磨剤入りのもの等）がありますので、使用する商品の説明書をよくお読みのうえご使用ください。また、高濃度アルコール消毒液・シンナー等で洗浄すると、ホイールやセンターキャップ等の表面にダメージを与える場合がありますので、併せてご注意ください。

■ 禁止事項

✕ 加工・修正の禁止

ホイール修正業者およびお客様ご自身による加工・修正は絶対に行わないでください。溶接や曲げ加工などの修正を施したホイールは強度が低下し、空気漏れや破損からの事故に結びつくため大変危険です。また、組み立て式ホイールのリムとディスクの結合ボルトは、製造時に規定トルクで締め付けられていますので、分解や増し締め / 緩めなどを絶対に行わないでください。

製造販売後に加工・修正が施されたホイールにつきましては、いかなるクレームも対象外となります。

ご了承ください。

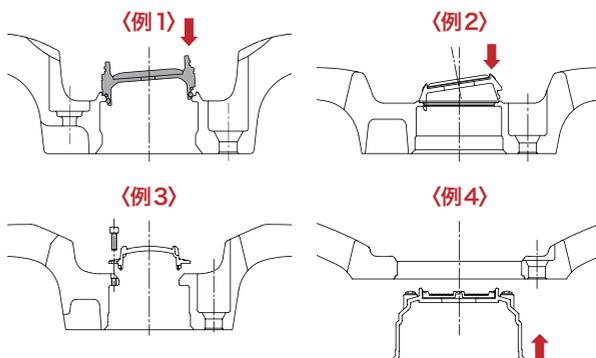
■ センターキャップの取り付けについて

! 取り付け方法

センターキャップの取り付け方法には下記の種別があります。それぞれの取り扱い内容を守ってご使用ください。

ホイールのセンターキャップ取り付け部分に汚れ、ゴミなどが付着していないことをあらかじめご確認ください。

- ・〈例1〉のオーリング（ゴムリング）部には、脱着しやすいようにグリスが塗布されていますので拭き取らないでください。再度の取り付け時にグリスが不足していた場合には、市販の潤滑剤等を塗布してください。
- ・〈例1〉〈例2〉のセンターキャップは、下図のように斜めにはめてから矢印部を押し込んでください。中央部を押し込むと、オーナメントが変形する恐れがあります。
- ・〈例3〉のセンターキャップは、付属のネジで取り付けてください。
- ・〈例4〉のセンターキャップは、ホイールの裏側からはめこんでください。



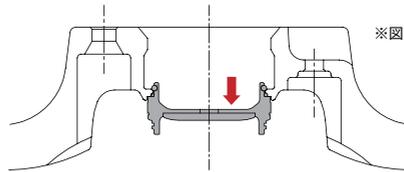
■ センターキャップの取り外しについて

! 取り外し方法



※センターキャップを裏から見た状態

- ①ホイール表面を下にして、下図のようにセンターキャップ裏側の矢印部分を押して抜いてください。
- ②センターキャップ裏側の中央には穴が空いていますが、**絶対にこの穴の中を押さないでください。オーナメントが剥がれたり、破損する恐れがあります。**
- ③ホイール表面を下にする際には、ホイール表面に傷などが付かぬよう、**ゴミ、金属物、石などが無い、きれいで平らな床面に置いてください。**
- ④センターキャップは必ず押して抜いてください。**叩くなどの衝撃を加えると破損の恐れがあるだけでなく、取り外すこともできません。**



※図はオーリングタイプ例

■ アルミホイールの取り扱いにはご注意ください

- 特殊加工品および特殊塗装品 (ダイヤモンドミラーカット・スパッタリング・アルマイト等) は表面が非常にデリケートなため、市販のホイールクリーナー等を長期間に渡って使用された場合、最悪、塗装面に傷・剥がれ・アルミの腐食を起こす場合があります。お手入れにつきましては、中性洗剤をご使用のうえ、多量の水分でできる限り柔らかい布等で洗浄して、十分に拭き取り・乾燥を行ってください。
- メッキクリーナーや鉄粉除去剤はご使用にならないでください。もしご使用される場合は、商品の説明書をよくお読みいただくようお願いいたします。なお洗車や縁石等での傷つけの補修はできません。
- スポンジ等のご使用や、一部コンパウンド等での磨きも傷つけの原因となりますのでご注意ください。
- 高速洗車機によるホイールの洗浄は避けてください。
- タイヤ・ホイールを車両から取り外して保管される場合は、きれいに洗浄・乾燥後、直射日光下や高温多湿的环境下には保管しないでください。

発売元：株式会社レイズ

〒577-0016 大阪府東大阪市長田西 2-4-7

TEL.06-6787-1110 (代)

レイズ・ユーザーダイヤル ▶ **06-6787-0019** (受付 9:00~18:00/日曜・祝日除く)